

図書館へ行こう！

もうすぐ5月です。楽しい大型連休の後には、新学期初めての定期テストや、部活動の大きな大会などがひかえています。こんな忙しい季節こそ、ちょっとしたひとときに読書で気持ちをしずめて、充実した毎日を過ごしてください。

先生方おすすめの1冊 Vol.0 春のおすすめ by 図書館

今回は、ここ数カ月で話題になっている本の中から図書館からのおすすめを紹介します。人はものごころついた時から何かしら悩みを抱えて生きていくものです。読書はそんな人生のつらさやせつなさを緩和し、さまざまな考え方に導いてくれます。

毎日新聞「余録」2018.01.15

貼付 蘭



菅野仁著『友だち幻想』 人付き合いが苦手だった小学生の長女がきっかけで10年前に刊行された新書。学校の課題図書や入試の問題文としても取り上げられているロングセラーである。「みんな仲良く」という理念や「私をまるごと受け入れてくれる」という考えは幻想であると説く。芥川賞作家・又吉直樹氏は、「友達は怖い存在・脅威になりうる」「いくら仲のいい友だちでも、100%理解できる友だちなんてありえない」「自分以外は全員『他者』」と語り、同書の「ほとんどすべて」の部分に感銘を受けたという。「この本を読んで、友達との関係が上手いかわからない理由が分かった」「人付き合いは苦手だけど、一歩踏み出そうという勇気が湧いてくる」と、刊行後10年を経て、今、評判の同書である。

吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』 1937年に出版されて以来、子ども、親、祖父母…すべての世代で読まれている歴史的名著。逆境や苦しみを感ずるのは、前進している証だ。考える、悩むことに価値がある、と、今は亡き著者が読者である私たちを励ましてくれる。勇気、いじめ、貧困、格差、教養…昔も今も変わらない人生のテーマに真摯に向き合う主人公のコペル君と叔父さん。二人の姿勢には、生き方の指針となる言葉が数多く示されている。一度手にとって、人生を見つめ直すきっかけにしてほしい。宮崎駿監督が自身の引退を撤回し、ジブリ新作映画として「冒険活劇ファンタジー・君たちはどう生きるか」の制作に今まさに取り組んでいることにも注目したい。



名まえをつけてください



応募箱は図書館にあります

← 3月に退職された竹森豊先生(英語科)が、ご自身で手づくりされた編みぐるみを図書館に贈ってくださいました。黄色と赤とピンクに彩られた、とてもかわいいウサギです。せっかくなので、このウサギを図書館キャラクターとして名前を募集したいと思います。まずは顔を見に来てくださいね。竹森先生、ありがとうございました。

学院の先生方がとっておきの1冊を紹介くださる連載企画「先生方おすすめの1冊」は、来月スタートです！どんな本を勧めてくださるか、とても楽しみです。